

敗北へエスカレート：米国は両戦線で敗北中 | スタニスラフクラピヴニク

西アジアと東欧での戦争は融合しつつある。これが偶然だと思うなら、売りたい橋がある。両戦域での垂直的エスカレーションが大失敗に終わっていることが明らかになるなか、ワシントンのネオコンは戦術を変えたようだ。すなわち、より多くの当事者を複数戦域にまたがる戦争へ引き込むための水平的エスカレーションである。パスカルとスタスが、イラン発およびイランに対する最新の攻撃、ウクライナ戦争と中東戦争が連動するリスク、米国の軍事エネルギー面での限界、ドローン攻撃とロシアの自制、ウクライナの防衛線周辺での戦闘、そして戦後の安全保障体制の可能性について議論する。また、今年後半にウクライナの戦場での立場が急激に弱まる可能性があるかどうかについても討論する。スタスのフォローはこちら：YouTube: @MrSlavikman X / Twitter: <https://x.com/STANISKRAPIVNIK> Telegram 英語版: <https://t.me/staswasthereenglish2> Telegram ロシア語版: <https://t.me/stastydaibratno> ご支援はこちら：Neutrality Studies substack: <https://pascallottaz.substack.com> グッズ: <https://neutralitystudies.com/shop> 寄付: <https://neutralitystudies.com/donate> タイムスタンプ: 00:00:00 はじめに 00:00:40 イラン攻撃をめぐる主張と広範なエスカレーション 00:13:28 米国の二正面ジレンマ 00:24:54 ロシアの自制と黒海でのエスカレーション 00:37:24 ウクライナの防衛と前線の圧力 00:51:40 ロシアの戦後安全保障戦略

#Pascal

皆さん、ニュートラルリティスタディーズへお帰りなさい。今日は、いつも素晴らしいスタニスラフクラピヴニクさんに最新情報を伺います。スタス、また来ていただきありがとうございます。

#Stanislav Krapivnik

ありがとうございます、ありがとうございます。まだ休暇中です。

#Pascal

ええ、休暇中に時間を取っていただいて、ありがとうございます。そちらで楽しく過ごせているといいんですが、休暇シーズン、ホリデーシーズンにもかかわらず、起き続けているあらゆる悲劇について、私たちはまだ話さなければなりません。お聞きます。ゼレンスキー氏、そしてウクライナが実際にカスピ海でイランのタンカーを攻撃したという話を聞いたとき、どう思われましたか。今では、アメリカの情報支援なしにはそんなことはできないと、ほとんどの人が確信しています。そして今になって、彼らはすでに発言を撤回し、謝罪しました。これは、どう理解すればいいのでしょうか。

#Stanislav Krapivnik

イランが謝罪で済ませるとは思いません。イランは今、「目には目を」という気分でしょう。ただ、イランには報復の規模を拡大する傾向があります。ですから今の段階では、目には二つの目、ということになるかもしれません。まあ、彼らは意図的にやったんです。つまり、謝罪の余地はありません。事故ではなかった。アメリカは、はるかカスピ海まで飛ぶ長距離ドローンに座標を提供していました。ウクライナ側は、黒海の中央部や西部でさえ、何も見えていません。すべてアメリカかイギリ

スの情報提供によるものです。それでも私は、なぜロシアがまだ撃ち落とし始めていないのか理解できません。少なくともアメリカのドローンから始めて、偵察や目標位置の特定に使われている有人機へと、段階的に進めていけばいいのです。

もっとずっと前に、そうしておくべきだった。イランはかなり前から始めていた。その点については、イランに敬意を表するよ。今、見え始めているのは、戦線が広がり始めているということだ。第一次世界大戦を見れば、みんな一斉に突き進んでいった。主な衝突はオーストリア＝ハンガリーとセルビアの間で起きていた。それ以外のヨーロッパは、基本的には平和だった。ところが、そこから一気に動き出した。空に一発、合図のような銃声が放たれ、誰もが二か月で終わる栄光の戦争へと駆け出していった。第二次世界大戦も、最初は孤立した、あるいは半ば孤立した複数の紛争から始まった。それらが拡大し、成長し、やがて一体となった明確な戦線になった。

これが、ここで私たちが目にしていることです。まず第一に、イランはウクライナに届きます。特にウクライナ南部には届くんです。イランには三つの選択肢があります。必要なら、ロシアの衛星、あるいは中国の衛星からの情報を使って、ウクライナや船舶を直接攻撃することができます。中国がウクライナに関する情報を渡すとは思いませんが、ロシアなら渡すでしょう。ロシア領土を攻撃の発射拠点として使わせてほしいと要請することもできます。あるいは、これがイランにとってさらに拡大していくなら、最善の選択肢は——イランには一つ問題があります。武装した兵力が百万人いるんです。二百万人、三百万人までなら、十分に簡単に増やせます。

しかし、一部の特殊部隊を除けば、イランには実戦経験がありません。ないんです。イランイラク戦争を戦った人たちは、今では五十代、六十代です。ですから、もうその経験を持っているわけではありません。経験はどこで得るのか。まあ、十万人の部隊を送り出して、ウクライナでの代理戦争でNATOと戦わせれば、そういう形で多くの経験を積めます。少なくとも五人に一人、場合によっては三人に一人が経験者であれば、その経験を共有し、残りの兵士たちにそのレベルの専門性を持ち込むことができます。経験のある兵士を各所に配置し、各部隊に経験豊富な軍曹を入れるんです。

これは、ちなみに北朝鮮がまったく同じことをやったケースです。ただし北朝鮮はロシアと防衛同盟を結んでいて、ロシアの完全な領土、つまり疑いようもないロシア領であるクルスクへのNATOの侵攻と戦っていました。ええ。イランはアメリカと戦争状態にあります。また一つの、アメリカが宣戦布告していない戦争です。しかしこれは侵略戦争でした。ウクライナはイランを攻撃した。いまになってどれほど謝罪したがってしようと、これは戦争行為です。では、イランがこの謝罪を受け入れたら、何が起きるでしょうか。さらに攻撃が続くでしょう。キエフが攻撃されるか、十分に激しく攻撃されるまで、これが新たなパターンになります。しかしイランには、戦闘経験を得るために10万人の部隊をロシアへ派遣する機会があります。ロシアがそれを歓迎すると思いますか？

#Pascal

それを望むのか、という問題です。というのも、北朝鮮軍の部隊についても、ロシアは長い間、「そんな部隊はいない」と言ってきました。それが実際には戦力になるのか、それとも足かせになるのかも、はっきりしていなかったわけですね。

#Stanislav Krapivnik

北朝鮮軍はよく戦いました。経験が浅く、実戦経験のある指揮官も一緒にいなかったことを考えれば、損害もまずまずの範囲でした。新兵部隊では、こういうことはいつも起きます。ですが、彼らはよく戦いました。イラン軍も、かなりよく戦うと思います。イランにとっては、その実戦経験を得られることは非常に大きなプラスになるでしょう。いいですか。私たちはNATOと戦っています。初日から、実際にNATOと戦ってきました。もちろん、彼らは自国の国旗を掲げているわけではありま

せん。しかし、1万人を超えるポーランド人が、単なる志願兵だったから死んだわけではありません。まあ、志願したのかもしれませんが。ですが、彼らは大隊丸ごとで志願したのです。

ポーランドは、その戦闘経験を得るために多くの死傷者を出しました。部隊は大隊単位で、順番に派遣されています。私が最初に現地へ行ったとき、前線から五百メートルの場所にいました。二〇二二年十二月二十四日のことです。前線の向こう側にいたのは、全員ポーランド人でした。ウクライナ人はいませんでした。無線傍受も、すべてポーランド語でした。だから、ええ、NATOはかなり前から積極的にロシアと戦ってきたんです。それから、フィンランド軍の兵士二千人が突然辞めたとなれば、彼らがどこへ向かっているのかは、まあ理解できます。そして彼らは傭兵ではありません。少なくとも、本当の意味では。私たちは傭兵ではない。ですから、イランには非常に良い機会があると思いますし、おそらくロシアもそれを歓迎するでしょう。

#Pascal

ちょっとだけお知らせです。このチャンネルを支援する一番いい方法は、私の無料Substackに登録することです。そちらで有料購読して支援することもできますし、neutralitystudies.comで新しいグッズを買うこともできます。リンクは下にあります。では、そちらでお会いしましょう。では、あなたの見方を聞かせてください。ここ二、三日、YouTubeでは、この二つの戦争が今や一つに融合しつつある、という話が出ています。実際、そうなっているのでしょうか。戦線が広がっているようにも見えます。それに、ゼレンスキーには、アメリカを引き込むためにそうする明確な動機があります。アメリカはイランとは戦争状態にある一方で、ロシアとの戦争については、公式にはまだ中立です。そうですよね。そしてウクライナにとって状況を変えうる唯一のことは、もちろんアメリカを完全に引き込むことです。でも、もしそれが本当にアメリカ側も同意していたことだとしたら、非常に愚かなことに思えます。ええ。

#Stanislav Krapivnik

地上部隊という点では、アメリカにできることはそれほど多くありません。現実的に考えましょう。アメリカ陸軍と海兵隊を合わせても、兵力は六十万人未満です。ですが、それは両軍全体の人数です。戦闘兵だけの数ではありません。そこを人々は理解していない傾向があります。トラック運転手もいる。衛生兵もいる。机に座っている経理担当もいる。拳銃はおろか、突撃銃をどう扱えばいいかも分からないような人たちです。彼らにとって最大の心配は、手をホチキスで留めてしまうことでもなければ、紙で指を切ることもない。私はかなり真剣に言っています。実際に見ると、アメリカ陸軍と海兵隊の実戦的な戦闘力は二十万人未満です。そして彼らを集めるには、大使館を含め、あらゆる場所から引き抜かなければならない。兵士をかき集めるには、どこからでも引き抜く必要があります。

では、もしアメリカが徴兵制なしで全面的に踏み切るとしても——今のアメリカで徴兵制を始めるなんて、おそらく南北戦争級の出来事になるでしょう——イランに対して二十万人の部隊を投入したとしても、相手は山岳地帯に陣地を築いた百万人です。冬か夏かは、実際には大した違いではありません。部隊はその山の中に消えていくでしょう。そして、戻ってはこない。沿岸部を取ることは、もちろん可能でしょう。でも、絶え間ない砲撃を受けることになります。ドローン攻撃も絶えません。反撃も絶えません。ちなみに、これはイラク軍に起きたことです。彼らはクウェート北東の低地を取ったものの、山岳地帯には、それらの準備された掩体壕のある山には、ほとんどそれ以上進めませんでした。

それに、もちろん、谷も道路もあります。そして、そこは準備された陣地から監視されています。山岳地帯で戦わざるを得ない。まるで朝鮮戦争の再来です。ただし朝鮮戦争を戦ったのは、第二次世界大戦を経験したアメリカの退役軍人でした。今回戦うことになるのは、アフガニスタンの、いわば

サファリのような戦いに慣れた人たちです。イラクのような場所で、車で回ってパトロールすることに慣れている。 もう一つ言えば、仮にアメリカがその部隊をロシア戦線に投入したとしても、それはさらに二十万人です。すでに戦争状態にある中で、おそらく今、戦場にいるウクライナ軍の二倍くらいになるでしょう。ロシアには予備として三十五万人の部隊が控えていて、いつでも追加の動員を行えます。 だから、改めて言いますが、どこまでやるつもりなんですか。遺体袋が大量に帰ってくるようになったら……。つまり、トランプはすでに支持の大半を失っています。

#Pascal

だから私は、二つの戦域を結びつけようとするものの背後に、何らかのアメリカの戦略があったとすれば、それはまったく理にかなわないと思います。 つまり、今アメリカに必要なのは、何とかしてこの二つを切り離しておくことです。そして、ウクライナの代理戦争を、ウクライナがアメリカのために戦う代理戦争のままにしておくことです。 一方、中東、いや西アジアでは、本来ならアメリカが手を引くのが最善でしょう。ですが残念ながら、イスラエルはアメリカを使って自分たちの戦争を戦わせる方法を見つけてしまいました。

イスラエルが、こう少し引いて、「私たちは何も攻撃していません。ほら、今は平和的です。これはアメリカの問題です」と、実質的に言っているのが分かりますよね。 つまりネタニヤフは、アメリカがウクライナにしたのと同じことを、アメリカにしているわけで。政治的な駆け引きとしては、うまくやったということです。でも、イランをもう攻撃できなくなっていることや、ミサイルも、実際に戦争で使う物資も尽きかけているという事実を考えれば、これは切り離しておくべきだ、ということになりますよね？ それとも、私が見落としていることがありますか。ええ。

#Stanislav Krapivnik

まず第一に、ところでネタニヤフはアメリカのニュース、今回はFOXに出て、ニューヨークで誰を選んだのかについて、アメリカ人を叱りつけているんです。考えてみてください。別の国の首脳が——従属国と呼ばなければそう呼んでもいいですが、そうではない。むしろ所有国に近い——今や、あなた方みたいな農民に、あなた方の都市の一つでどう投票すべきだったかを言い聞かせているんです。

#Pascal

はい。

#Stanislav Krapivnik

それ自体が、とてつもない侮辱です。親ウクライナか反ウクライナか、グローバリストか反グローバリストか、立場がどこであろうと関係ありません。 つまり、人口で見ればニューヨークより、おそらく二倍も小さい国の首脳が、誰に投票すべきだったのか、誰に投票すべきでなかったのかを、あなたに説教しているわけです。いったい何様なんだ？ ウルズラフォンデアライエンが北京へ行って、中国人に対し、中国のある都市で誰に投票すべきだったのかと説教するのと同じです。同じレベルですよ。

#Pascal

これは、傲慢さというのは、いわゆる大国対小国という話ではない、ということを示しているだけです。そういう傲慢さは、システム全体に組み込まれているんです。たとえばイスラエルやネタニヤ

フ首相は、農民たちにどう投票すべきかを指図する権利が自分たちにあると思っている。EUの中枢も同じで、ルーマニア人にどう投票すべきか、指導的な立場に誰を置いて、誰を置けないのかを指図する資格があると思っている。これは、いわば西側全体に共通する病気なんです。

#Stanislav Krapivnik

でも、ルーマニア人は少なくともこの組織の一員ですよ。一方でイスラエル人は、少なくとも公式にはアメリカの一部ではありません。彼らが、すべてを支配する唯一の国家というわけでもありません。

#Pascal

公式には、です。つまり、今となっては皆、この二つが一心同体だと分かっていると思います。複雑に絡み合った、一つのシステムなんです。ただ、戦場全体の状況に話を戻すと、両方の戦域で、アメリカは自分たちでかなり深刻な問題を積み上げてしまったように見えます。そして今、それを自力では解決できない状況にあるように思います。

#Stanislav Krapivnik

そうですね、もうファンは回っていません。そこに、あまりにも大量のクソが飛び込んでいるんです。そして、さらに悪化するかもしれません。アメリカ議会では、復活したネオコンたちが、ウクライナ上空の空域を閉鎖しろと叫んでいます。これは二〇二二年にも二〇二三年にも出た話です。そのときは、そんなことをすれば第三次世界大戦になり、直接衝突になって、アメリカは多くの航空機を失うことになる、基本的には言われていました。彼らはその後、引き下がったように見えました。しかし今は勢いついて、また前に進もうとしている。ウクライナ上空の空を閉鎖しよう、と。

#Pascal

同時に今、議会では、いわゆるグレアムブルーメンソール法案が出ています。これは、ロシアと今も取引している国々、もちろん中国やインド、その他いくつかの国に対して、最大百分の百の関税を課するというものです。ただでさえ、ホルムズ海峡で起きていることのせいで世界経済は壊滅的な状態にあり、アメリカ経済も実際に苦しんでいる、そのタイミングです。彼らはますます深く穴を掘っているようにしか見えません。しかも、この法案はまだ成立していません。成立すれば、ドナルド・トランプに一種の裁量権を与えることになります。ですから、まだ決まったことではまったくありません。でも、非常に奇妙で、異様な展開に見えます。

#Stanislav Krapivnik

以前にも増して、自分で自分を傷つけることになっています。しかも、実際にはいつだって、それ以上に悪いんです。というのも、AIバブルがあるからです。そしてAIバブルは、原子力エネルギーを土台にして膨らんでいます。なぜか分かりますか。サーバーが十キロ、十五キロにも及ぶデータセンターを設置して、それを華氏マイナス二百五十度まで冷やす必要がある。さらに、膨大なサーバーの電力消費と、そこで発生する熱もあります。そんなことを実現するには、原子力発電を使うしかありません。必要になるのはギガワット級です。しかも、おそらく数ギガワットでは足りません。計画されている大規模なセンターの中には、複数の原子力発電所が必要になるものもあります。

あなたが話している電力の量は、正気じゃないほどです。今、小規模なデータセンターでも、テネシー州にあるような施設はガスで動いています。そして、その追加の電気料金を払わされるのは誰だと思いますか？ 庶民です。企業じゃない。その企業にテネシー州で建設してもらうために、無料

の電力を与えたんです。狂っています。電気料金がものすごく跳ね上がって、人々は激怒しています。1世帯あたり年間およそ250ドル増えると言われてしています。これに数百万世帯を掛ければ、とんでもない額です。でも今、世界のウランの70%を処理しているのは、いったい誰だと思いますか？

#Stanislav Krapivnik

そう、ロシアです。ロシア。

#Stanislav Krapivnik

ところで、アメリカ本土には、そもそもウランがありません。まして、それを処理する能力もない。対してカナダはどうか。ですが問題は、それをどうするのかということです。処理能力がないんです。フランスにもかなりあります。中国にもあります。ですが、世界のウランの70%をロシアが握っています。そしてアメリカは、原子力発電所向けの濃縮ウランをロシアから買っています。だから、どうぞやればいい。でも、アメリカへの輸入品に500%の関税をかける、という話さえあります。いいでしょう。ロシア産ウランを5倍、6倍の価格で買い続けられればいい。電気料金の請求書へようこそ。

#Pascal

二〇二二年、二〇二三年、二〇二四年の時点では、これがどこへ向かうはずなのか、その筋道はもっと追いやすかったんです。というのも、さまざまな経済システムのどれがどこまで持ちこたえられるのか、まだはっきりしていなかった。必要なあらゆる戦争の装備を製造する産業能力や、戦場での戦術についても、どうなるのか明確ではなかったんです。でも今では、非常にはっきりしています。今週、ウラジーミルプーチンが演説で実際に何を言ったかを聞けば——相手は、たしか国家院の議員だったと思います。いや、将校団だったかもしれない。忘れましたが——彼はかなり上機嫌で、こういう趣旨のことを言っていました。「彼らがわれわれに対して使っているもの、つまりドローンには対処している。そして、われわれは自分たちの方針を貫いている」と。

軍事作戦、特別軍事作戦は、成果が出ているから続けるわけです。ロシア側から見れば、消耗戦は機能している。前進も機能している。そして、自国の兵士をあまり多く死なせないよう慎重に進めることも、うまくいっている。だから、自分たちの方針を貫き、相手に挑発されない。ロシアが近いうちにそのやり方を変えろとは、私には思えません。実際、それには少し安心しています。というのも、ワイルドベリーズの工場や倉庫への攻撃についても、ロシアがあまりに怒って、怒りに任せて何か行動を起こすのではないかと心配していたからです。でも、ウラジーミルプーチンはそうはせず、ただ自分たちの方針を貫くという強い決意をしているように見えます。あなたの分析も、そういうものですか？

#Stanislav Krapivnik

ええ、そうです。それをどれだけ続けられるのかは分かりません。というのも、圧力がかかっているからです。特に、ウクライナと西側が、ますます民間人を狙うようになっている。そこが狙いやすい標的です。いずれロシアは、これにもっと強く対応せざるを得なくなります。実際、ロシアはすでにこうしたことをやっています。黒海を閉鎖することです。黒海は事実上、閉鎖されています。そしてロシアは、ロシアでもウクライナでもない国のタンカーを攻撃している。トルコのタンカーも攻撃した。NATO加盟国が所有する、そこへ入っていくNATOのタンカーも攻撃した。あの海域を閉鎖するんです。入ってくるなら、攻撃する。それだけです。そして、NATOが自分たちの海軍を急行さ

せて、サンゴ礁にでもしようとしている様子は見えていません。彼らは抗議する。悪態をつく。不満を言う。でも、直接何かするつもりはない。なぜなら最後に……トルコが最も望まないのは、ロシアとの大戦争だからです。

ウクライナはトルコの船舶を攻撃してきました。ギリシャの船舶も攻撃しました。NATO加盟国の船舶を数多く攻撃しています。実質的に、ウクライナのドナウ川と黒海にある港はすべて閉鎖されています。これは彼らにとって、いくつもの面で大惨事です。第一に、より重い装備の多くは、船でそこから入ってきていました。加えて、アメリカが供与した重火器の一部を、彼らは輸出していました。私の言葉を信じてください。アメリカはこれを知っています。どれだけ知らないと言っても、です。ですから、そうした港を経由する国々が、それらを穀物で覆い、船で運び出しています。ウクライナが自国の穀物を輸出するとなると、鉄道では非常に難しいでしょう。特に、今の彼らが保有する輸送能力は限られていますから。トラックでも難しい。まあ、ポーランドやルーマニア、ほかの国々にとっては、きっと大歓迎でしょう。

#Pascal

彼らはウクライナ産の穀物を望んでいません。

#Stanislav Krapivnik

政府はそうかもしれません。でも国民や農業業界は、断じてそんなことはありません。ちなみに、その多くは実際にフランスやドイツに向かっていました。ですから、そうした地域では食料価格がある程度上がることになります。しかしウクライナにとっても、これは大きな収益源の損失です。ヒマワリの種、ヒマワリ油、穀物などを輸出していたわけです。あの港を失いました。それで終わりです。港は破壊され、船舶輸送は絶えず攻撃を受けています。ゲラン4ドローンも出ています。ちなみにゲラン4ドローンについては、以前にも触れたと思いますが、対空ミサイルを搭載しています。

ウクライナ側はヘリコプターでそれを撃ち落とそうとしました。しかし、ヘリコプターのほうがゲラン4ドローンに撃ち落とされ、そのドローンはそのまま目標に向けて飛び続けたんです。ええ、技術的にはそこまで高度になっています。これはすべて、ウクライナ、つまりウクライナとNATOによる黒海東部とアゾフ海での作戦から始まりました。それに対してロシアは、黒海西部を封鎖する作戦で対抗したわけです。ですから、確かにエスカレーションは起きています。現時点では、ロシア以外の欧州諸国への直接攻撃ではないかもしれませんが、しかし、そこまで容易にエスカレートする可能性はあります。

#Pascal

そうですね、エスカレーションの危険がなくなったわけでは、まったくありません。ですが、ロシアは今、このドローン攻撃に対して何をしていますか。ウクライナの元国防相フィョードロフは交代しましたが、どうやら彼のドローン戦略は今もそのまま実行されているようです。今でも、ほぼ毎晩、数百機のドローンによる攻撃が続いています。現時点で、それはロシアにどのような影響を与えているのでしょうか。

#Stanislav Krapivnik

対空システムは、常に改良され、拡充されています。ロシアは、こうしたドローンの兵站面を攻撃してきました。そのため、ドローンはより遠い地点から発射せざるを得なくなっています。というのも、給油施設や、使われている小型トラック、民間トラックの保管施設を破壊しているからです。ただ、主な標的は給油施設です。国境に接するいくつかの州では、文字どおり、すべての給油所を破

壊しました。そして今、さらに内陸部へと攻撃を進めています。その結果、兵站ははるかに難しくなります。ドローンにより奥地から発射しなければならず、レーダーの反応を捉え、準備し、撃墜するまでの時間的な余裕が大きくなります。そして飛来中に、その数を減らせるのです。

ただ、民間人への攻撃は続いていて、しかも常に起きています。もちろん、明白な理由で、私が今どこにいるかは言いません。ただ、この地域では、さまざまな方向を飛ぶドローンのために、警報が一日に何度も鳴ると言っておきます。ロシア人の多くは、「また警報か」という感じです。人々の反応はあまり大きくありません。ロシア人を動揺させるのは難しいんです。でも、実際に攻撃は行われています。そして、何を攻撃しているのか見れば、ほとんどが民間の住宅です。一戸建て住宅や集合住宅の高層建物です。彼らが狙っているのはそこです。製油所は復旧して、再稼働しています。被害を受けた製油所には今、それぞれ武装した警備車両が配置されて守られています。そうした防護は広がっていますが、すべての建物に武装車両を置くことはできません。

十階建てや二十階建てのアパートです。だから、これは大きな問題です。そしてウクライナ側は主に、いや、ウクライナ、NATO、アメリカ、NATOは、主に民間人を狙っています。これはテロ戦争です。アメリカは軍を攻撃できないとき、いつも民間人の殺害に向かってきました。アメリカの歴史を十分さかのぼれば、アメリカは基本的にずっとそうしてきたんです。ただ、より近代の歴史に限って言うなら、ドイツ全土への焼夷爆撃で、ドイツ人五百万人が死にました。世界は何を覚えていますか。ドレスデンです。ドレスデンは最後の都市にすぎません。ドイツのすべての都市が焼夷爆撃されました。フランスでも、北部のフランスの村や町への焼夷爆撃で、七万人が殺されました。その多くには、ドイツ兵すらいなかったのです。ずっとです。

誰も、自分たちがなぜ壊滅させられているのか、本当には分かっていなかった。文字どおり、終末的な規模で壊滅させられていたんです。それから、日本で起きたことです。まず、日本の都市への焼夷弾爆撃。東京では一度の攻撃で五十万人が殺された。長崎や広島よりはるかに多い数です。その後、北朝鮮でも同じことがありました。ベトナムでも、北ベトナムでも同じことが起きた。そういうことが、何度も繰り返されてきたんです。さらにモスルの話に飛んでもいいでしょう。アメリカは、いわゆる「解放」のために、あの都市を壊滅させた。これが共通するやり方です。アメリカはユーゴスラビアでもそうした。軍を見つけられないと、市民を殺し始める。好むと好まざるとにかかわらず、それがアメリカの政策です。これが現実であり、その歴史です。どれだけ取り繕おうとしても、変わりません。

#Pascal

そうですね。第二次世界大戦中に民間人が亡くなった、唯一のスイスの都市——民間人が二十数人亡くなった都市は、シャフハウゼンでした。爆撃したのはドイツ軍ではなく、アメリカ軍です。アメリカ軍でした。彼らはその日のうちに謝罪しました。そこをドイツの都市だと思ったんです。国境にもかなり近いですし、まあ、どうだったのか分かりませんが。でも、民間インフラを標的にすることは、まさに普通に行われていることです。そしてどうやら、アメリカはそこへ少しずつ進んできた、ということですよね。ロシア国内の民間目標を、好きな時に攻撃できる能力を、少しずつ手にしてきた。一方でロシアは、反対側で同じようなことをする意思がないままです。

つまり、これが非対称性です。ブライアンバーレティック氏らが指摘しているように、今ではロシアへのこうした直接攻撃が、実際に十分あり得るものになっています。繰り返しますが、レッドラインは何度も何度も、後退させられてきました。そこで彼のような人たちは、これは持続不可能だと言うわけです。ロシアは何かをしなければならない。そうでなければ、相手はさらに踏み込み、ロシアが最大限の自制を保ち続けることを期待して、いつそうエスカレートさせるだろう、と。その「最大限の自制」については、どう考えますか。私には、それを維持し続けることが戦略のように見えます。

#Stanislav Krapivnik

そうです。西側から見ても、それは十分明らかです。ロシアがその自制をいつまで続けるのか。まず第一に、ロシアは完全に自制しているわけではありません。それは私たちも見てきました。ヨーロッパ各地の工業地帯で、まあ、はっきり言えば、施設での火災などが起きています。どこから来ているのかは分かりません。事故かもしれない。事故ではないかもしれない。それを否定することはできません。第二に、先ほど言ったように、ロシアは黒海西部を封鎖し、オデーサやほかの港に向かう欧州などのタンカーや船舶を攻撃しています。ですから、完全に自制しているわけではないんです。今している範囲の自制を、あとどれだけ続けるのか。それは重要な問いです。ただ、圧力は高まっています。民間人が一人亡くなるたびに、ウラジーミル・ウラジーミロヴィチや政府にかかる圧力は強まります。だから、遅かれ早かれ、何かが決壊するでしょう。そして反撃は来ます。熊をいつまでも突き続けていれば、いつかは爪を振るってくる。それが政治の現実です。

#Pascal

ええ、NATO側にとっては、それも実際に計算の一つなんだと思います。つまり、こうした挑発を続ける、あるいは続けさせるということです。でも、それはすべて、実際の戦場の状況が彼らにとって悪化しているからです。それで、たぶん、実際に何が起きているのかについて、あなたは非常に詳しい見通しをお持ちだと思います。私が最後に知った情報では、The Duranの皆さんのおかげでもありますが、現在の戦闘はドンバスに残る最後の要塞陣地をめぐるもので、その後はドニエプル川まで、もしかするとさらにその先まで、ずっと開けた平原になるということです。現時点で、ウクライナの防衛はどうなっていると見ていますか。というのも、率直に言って、この4年間、彼らはこの防衛線を維持し、持ちこたえることができてきましたよね。撤退はしてきたものの、少しずつでした。ですから、今はどの段階にいるのでしょうか。

#Stanislav Krapivnik

そうですね。特にドンバスは、町や村が巨大に連なった地域です。南北に長いだけでなく、東西にも広がっています。ですから、縦深防御ができてきたわけです。こうした陣地は、かなり長い間、準備されてきました。二〇一二年から——失礼、二〇一四年からです。問題は、ここが最後だということです。これまでは、持ちこたえられるところまで持ちこたえてきました。あるいは、ウクライナ側の死傷者があまりに多くなって、もう誰もそこへ戻せなくなるまでです。そうすると撤退するか、最終的には押し出されることになります。そして三キロ、四キロ、五キロ後退して、次の町へ、さらに次の町へと下がることができました。時にはそれより短く、前線から前線へ、前線から前線へ、奥行きは二キロほどしかないこともありましたが。しかし、その先には前線の終わりがありません。文字どおり、あの巨大な市街地の連年の向こうには、終わりがあつたのです……

#Stanislav Krapivnik

そこは開けた野原です。その野原はすでに、ドローンや砲撃、航空攻撃の射程に入っています。ですから物資を運び込むだけでも十分に困難ですが、野原を横切って運ぶことはできます。しかし九月の終わり、あるいは後半になると、実際にいつ雨が本格化するかにもよりますが、すべてがぬかるみになります。そうすると残されるのは道路、つまり固く踏み固められた道路だけです。そしてそれは、はるかに難しくなります。ですから、九月末までそこにとどまっている者、まだそこにいるウクライナ兵は、そこで死ぬことになります。あるいは降伏するかもしれません。しかし撤退はできません。逃げる場所がないのです。その先には小さな村があるだけです。そこは準備ができていません。特に防衛線と呼べるものもありません。掘った野戦陣地や塹壕はいくらかありますが、連続した防衛線ではありません。それを守るだけの兵力もありません。そして、彼らは開けた野原にいます。

彼らには、しっかり築かれた何かを足場にできるという利点がありません。だから、そこに非常に大きな問題があります。現時点で前線は、クラマトルスク、ドルジキウカ、スロビャンスクから、およそ五キロから五五キロの地点にあります。前進はいったん止まっています。ロシア側が戦力を再編しているからです。複数の、異なる突破部隊が入り込んでいました。今は、そのウクライナ側の抵抗拠点の間にある地域を固めていて、少しずつ前に進み始めています。それから、ドルジキウカの南にある最後の町では、すでに戦闘が起きています。それはほとんど、その町にまで及んでいます。これは南側の翼で、これらすべての町を通り抜ける道路、つまり幹線道路を北上している部隊です。そしてクラスヌイリマンは、この時点では掃討作戦です。

そこはスロビャンスクの北およそ十キロです。しかも高地にあるので、砲兵やドローンなどで、スロビャンスクを真下に見下ろせます。ですから、その戦線は夏が終わる前に、スロビャンスクへ向けて動き始めるでしょう。それからドブロピリヤ、DNR、ドネツク州、ドネツク人民共和国です。ロシア軍はドニプロペトロウシクに進出し、その縁まで到達して、そこにいるウクライナ兵を釘付けにしました。そして今、その周辺から複数の方向へ進み始めています。南では大きな突破が起きていて、ドニプロペトロウシク方面へ領土を広げています。しかし最大の脅威は、ドニプロペトロウシク北部で起きていることです。ロシア軍は、その町を包囲して戦力を投入し、陥落させようとするのではなく、ウクライナ軍を中に釘付けにして、出られないようにしたのです。

さもないと、その町は陥落します。しかし、そのすぐ北では大規模な攻勢が進んでいて、ドルジキウカ、クラマトルスクの背後まで回り込むことになります。つまり、それに加えて、奥行きのある包囲作戦が進んでいるわけです。ですから、挟撃があります。正面攻撃があります。そして今、その地域では奥深くへの包囲も起きています。町から押し出されたとしても、逃げ場がないかもしれません。すでに背後にロシア軍がいる可能性があるからです。では、どうするのか。これは大きな惨事になるでしょう。ただ、現時点でロシアの注意の大半を引きつけているのはこの地域です。とはいえ、ここだけではありません。ハルキウ州北東部は、ほぼ完全に制圧されています。

それは州全体のおよそ十五パーセントです。しかし実際には、その地域の前線をおよそ四分の一まで縮めることになります。ですから、部隊をはるかに集中させやすくなります。これは、ハルキウの東を流れるセヴェルスキドネツ川より東側のすべてです。スミイについては、ロシア軍がスミイの周辺まで来ています。ですから、そこももう一つの都市です。スミイは、防衛線という点では要衝の都市ではありません。しかし、重要な物流拠点です。キーウから、チェルニーヒウからスミイへ向かう主要幹線道路があります。スミイからクルスクへ向かう道路もあります。そして南へ、南東方向にハルキウへ向かう道路もあります。つまり、そこがハルキウにとって東側への主要な生命線です。そこを断てば、ハルキウは基本的に包囲されます。南には川もあります。

セヴェルスキドネツ川に架かる橋を落とせば、ハリコフは実質的に孤立します。つまり、兵站を断ち、周辺地域で切り離すことで、ハリコフを縦深的に包囲することになる。そういう動きは、今も続いています。これからも続くでしょう。現時点で、ウクライナ側にできることはあまりありません。戦線を広げすぎています。NATOを投入することはできるでしょう。フランスが、別の国として戦闘兵四万人を送り込むこともあり得る。それでも一週間か二週間、あるいは一か月ほど目立つだけで、彼らはほとんど残らなくなるでしょう。ドイツにできることは、さらに少ない。ポーランドも、本当に戦いたいなら別ですが。ただ、ポーランドとワルシャワ、そしてキーウの関係を考えれば、今はワルシャワが動き出す条件が整っています。

#Pascal

そして、私たちは自分たちの領土を取り戻すつもりです。どうもありがとうございました。

#Stanislav Krapivnik

ウクライナの西部、北西部全体は、私たちがポーランドカードを発給した市民、あるいは人々のための保護領になるでしょう。このカードは、基本的には——彼らは市民ではありませんが、アメリカのグリーンカードのようなものです。望めばいつでもポーランドに入国し、永住することが認められます。つまり、市民になる一步手前です。だから今、ポーランドにはそれを受け入れるための土台があります。政治的な土台です。そして今、ポーランドでは反ウクライナ人の暴力が急増しています。

#Pascal

ウクライナにとって、これは実際かなり劇的な話に聞こえます。あなたの率直な感覚はどうですか。どこかの時点で、何かが一気に加速するんですよね。何かが状況を変える。今のところは、まだ一人ひとりがぶつかり合う戦いが続いています。しかし、いずれ戦線が開ける時が来るんですよね。そうすると、ウクライナ、そしてキーウも、進軍に対してかなり無防備になるかもしれないという、大きなパニックを引き起こすことになる。どう思いますか。今、ウラジーミルプーチンはかなり楽観的に見えます。この夏が、地図上のかなり劇的な変化につながる夏になる可能性はありますか。そしてそれが、何が可能で何が不可能かをめぐる政治にも変化をもたらすのでしょうか。

#Stanislav Krapivnik

夏になるかもしれませんが、夏の終わりごろでしょう。あるいは秋、そして初冬にかけてかもしれません。秋の時期ですね。すべては、ウクライナ軍の士気が最後の防衛線でどれだけ持ちこたえられるかにかかっています。なぜなら、そこが崩れれば——第一に、少なくともドニプロペトロウシクに至るまで、その防衛線が崩れれば、多くのロシア軍部隊を他の地域へ回せるようになるからです。第二に、それはウクライナ軍とウクライナ国民にとって、士気への大きな打撃になります。そこが完全に失われ、最後の主要な防衛線がなくなれば、ロシア軍の前進は、仮に一日三百メートルから四百メートル程度だとしても、週に二、三キロメートルの縦深への前進になります。それでも、この五か月間に起きてきたことと比べれば、すでにかなり大きな前進です。

それはものすごい突破口です。実際、これからさらに加速していくでしょう。ドローン戦についてもそうです。ドローン操縦者はたいいてい、前線のかかなり近くに配置されています。前線があまり動かない、あるいはまったく動かない間は、それで問題ありません。前に出て任務をこなし、戻ってくることができます。しかし前線が継続的に動いているなら、ドローン操縦者を前方へ送り込み、生き延びさせ続けるのは、はるかに難しくなります。というのも、その前線のさらに前方には、大量の偵察部隊や破壊工作部隊が展開するからです。いわば現代の散兵です。彼らは前方へ広く展開していきます。そうすると、ドローン操縦者を送り込もうとする側にとって、極めて大きな問題になります。

しかし、ドローンの操縦者は、もっと奥地から運用せざるを得なくなるでしょう。そうなれば、ロシア軍の戦線よりさらに奥を攻撃する能力は制限されます。多くの問題が起きることになります。そして、パニックです。社会的なパニックが起きるでしょう。今よりはるかに大きなものになります。ウクライナでは社会的な疲弊が非常に強い。信頼できる数少ない世論調査では、六〇%を超える人が、何らかの交渉による終結を望んでいます。ええ。おそらく、こう尋ね始めたらどうでしょう。「住民投票をしたいですか。ウクライナに残りたいですか。それともロシアに行きたいですか、ポーランドに行きたいですか、ハンガリーに行きたいですか」と。そうなれば、その時点でウクライナの周辺に、ウクライナとして残る部分がいかに少ないか、驚くことになるでしょう。それが現状です。そして、内部の勢力がいつまで権力を維持できるのか、私には分かりません。

#Pascal

最後に一点。戦後の状況を見据えた場合、今後のロシアの政治戦略はどうなると思いますか。というのも、もしロシアがそれを成し遂げ、戦争に勝って終結へ持ち込めれば、ヨーロッパ諸国と現地の人々は、ロシアを攻撃するための小さな玩具を失うことになりますよね。ではロシアは、この状況にどう向き合おうとするのでしょうか。ロシアが四年半にわたって求めてきたのは、安全保障上の状況、つまり安全保障地帯なのではないでしょうか。

#Stanislav Krapivnik

答えるのは非常に難しいです。仮定の話があまりにも多いからです。NATOがこの戦争に急いで介入して、愚かな間違いを犯したらどうなるのか、という仮定もあります。まあ、あなたはそれを間違いだと思うでしょう。でも、ウルズラにとっては、あらかじめ計画されたことなのかもしれません。スペインが燃えようが、フランスが燃えようが、彼女は気にしない。自分と自分の家族さえ巻き込まなければ、都市全体が燃えても気にしないのかもしれない。そういう要素があります。つまり、彼らがどこまで全面的に戦争に入ってくるのか。それによって、計算はある程度変わってくる可能性があります。

キエフが占領されるのか。キエフが併合されるのか。それとも併合されないのか。ウクライナ国家に、そもそも何が残るのか。ええと、ロシア軍が国境越しに、ウクライナ西部のどこか中央あたりにいるポーランド軍を見ているような状況になれば、それは実際、おそらく平和的な問題になるでしょう。なぜなら、その時点でポーランドがロシアとの大戦争に勝っているとは思えないからです。彼らは取り戻したものを吸収したいはずです。最近の世論調査を考えると、それはむしろ非常に安定した国境になるかもしれません。ポーランド人の七十二、七十三パーセントが、ウクライナ人には我慢できないという態度を示しています。「彼らを助けなければならない」という考えは、もうなくなった。完全に消え去りました。だから、いろいろな可能性があります。どう終わるのかを言うのは、非常に、非常に難しい。そしてそれは、今この地球上で最大の戦争屋であるアメリカとイギリスが何をするかにかかっています。もう一点あります。行かなければならないので。参加するまで一分しかありません。

#Pascal

はい。では、このあたりで締めくくりたいと思います。スタスさん、概要をありがとうございました。これはあまりに複雑ですが、またお話を伺います。休暇の残りも、どうぞ素晴らしい時間をお過ごしください。

#Stanislav Krapivnik

ありがとう。ありがとう。本当にありがとう。皆さん、ありがとう。ありがとう。さようなら。最近の世界情勢について、いつも何かしら話すことがありますね。